

カリキュラムマネジメントの視点を基にした、3つの資質・能力の観点での「目指す生徒の姿」設定

地域と共に「よく生きよ」
「よく生きよ」を自ら問い、共に考え、地域のために貢献しようとする生徒

よく生きよ
一人一人が「よく生きる」豊かな学園の創造
「共働・共励」「共鳴・共感」

社会で生きる知識・技能
獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒

課題解決での協働・創造
自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働しながら新たな考えを創造しようとする生徒

→「目指す生徒の姿」をポスターとして掲示し全校で共通理解
※資料1参照
→今年度は「課題解決での協働・創造」を重点として設定

学力向上フォーラムにおいても、「課題解決における共働・創造」に関わる姿が各教科で発揮されました。



今後の方向性 ～3つの連動を意識して～

大曲中学校としての「見方・考え方」の捉えを共通理解することは大前提として、このサイクルを回しながら、

(1) 携帯版PADカードの作成

←研究授業での活用は継続しつつ、研究授業用のPADの項目ほど細かくはない、日々の授業に対応した汎用性のある「携帯版」(手のひらサイズ)を教科部ごとに作成し、日常的に使用(意識)したい。

(2) 「課題解決での協働・創造」に関わる「ペア」「グループ」「自由交流」等のさらなる充実

PADカードを用いた授業研究会においてその有用性の実証と改善の提案がなされた。(→学力向上フォーラムにおいて全教科でその積み重ねを発揮できた。) 今後も検証を重ね、効果的な活用を探りたい。

(3) マイヒストリーのさらなる充実

①マイヒストリーをインタビューのレベルに深化
←振り返りの段階で学びの深まりを実感している生徒が多い。インタビューにおいては特にその姿が現れることが多い。

②双方向性を強化

←働かせたかった「見方・考え方」に○がついているかどうかで授業を検証する視点も大切にしたい。

③「主体的に学習に取り組む態度」等の評価との関連付けを模索

←「授業中の姿⇄評価問題⇄振り返りの内容」「振り返りの内容の積み重ね」の見取り方を職員研修の内容として取り上げていきたい。

大曲中学校としての「授業改善サイクル」の確立

大曲中学校としての「見方・考え方」の捉え

・生徒に働かせたい「見方・考え方」を、教科部で共通理解する

「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくり

- ・学習の見通しをもつ
- ・自分の考えをもつ
- ・集団で話合う
- ・内容や方法を振り返る

「思考の活性化」を促し、「深い理解」を実現する単元(題材)づくり

- ・各教科等の特質に応じた学習過程を通して習得する「知識及び技能」の明確化
- ・知識を他の学習や生活の場面で活用する学習場面の設定

授業改善サイクル

PADカード

- ・その時間における
Passiveな姿
Activeな姿
Deepな姿
を具体化する

マイヒストリー

- ・生徒の変容
・「見方・考え方」の更新と補強

- 参観で感じたP→A, A→Dの手立てを自身の授業にも生かしている。
- 発問や活動の精選に意識が高まった。
- 生徒の実態に応じた授業改善ができるツールだと思う。
- どんなに良いとされる指導案や教材、理論や方法よりも、生徒の姿だと強く思うようになった。
- 参観の視点がはっきりしており、他教科の授業参観にも積極的に関わることができる。
- 普段の授業でもP, A, Dの視点で生徒を見るようになった。(採用10年前後の職員)
▲普段の授業ではその視点で一人一人を見る余裕はない。(～3年目の職員等) → 普段使いできるものにしたい。
- ▲Dの姿を具体的に描く技量が必要。
- 理科では今後、「班でのP, A, Dの状態」というものも考えてみたい。

※参考資料→資料3

- 生徒の記述内容で、自身の授業を振り返ることができる。
- 全教科で同じものを使っていることが本校の強み。
- 振り返りの内容を継続して見ること、単元を通しての変容・深まりが見られる。
- 発表できなかった生徒が考えを書いてくることも多い。
- 生徒と教師で「見方・考え方」を共通理解できていることは大きい。
- 生徒の「つまずき」「困り感」を生かした授業づくりにつながっている。
- 最初は「～がわかった」で終わっていたものが、徐々に「思考の広がり」「深まり」に着目したものに変わっていった。
- ▲積み重ねることによって分かることは分かるが、教科的には時間的に厳しいものもある。
- ▲継続による向上の反面、マンネリ化する場面もある。

※参考資料→資料2

<従来の「振り返り」という視点>

- 感想などを書くことで、頭の中が整頓されて復習はしやすい。
- 自分の言葉で書くことでその日の内容をちゃんと理解できたと感じる。
- マイヒストリーを書くことで、その授業の大事な所を自分の言葉でまとめるために考えるので、前よりも前の授業でやったことを覚えていれるようになった。
- 自分がその時理解できたものとできないものの区別がはっきりとついて、家庭学習の内容に生かすことができた。
- 何が特に分かっていないのかが理解でき、どこを復習すれば良いのかが分かった。課題に向けて頑張ることができた。自分の足りない所を自覚することができた。
- マイヒストリーを書いて、自分が分からなかったことやできた喜びを書いたことで、その授業の振り返りができて楽しい。

<「学びの深まり」「自分の学び方の振り返り」という視点>

- ～な場合はどうなのだろうと思うときがあるようになった。
- 授業を終えて習ったことを使って何かできないか考察してそれを次の授業で試すようになった。
- その日の勉強での疑問などがでて、学が気持ちになれる。
- 「今日学んだことは…こうだな」「ならこれは何でこうなの？」と考えが深まっていくのを感じた。
- 自分の考えや、人の意見を聞いて感じたことを記録することで、考えが深まった。
- 次の授業でやってみたいこと、今日学んだことを頭の中で整頓できる。
- 「誰が参考になった」とか、「このやり方(学習方法)が良く分かった」など、最後に自分の考えを整理しておくことができる。
- 改めてその教科の振り返りができてとてもいい。分からないところがあったとき、何時間前の授業かが分かる。右側の項目を満たせたとき、授業が良くてきたと実感できる。
- 他の人とマイヒストリーを見合っただけで納得できたり共感できたりする。

<教師との関わり>

- 普段できない、先生への意見なども書ける。
- 先生が自分のマイヒストリーについてコメントをくれる。
- マイヒストリーの先生からいただくコメントを見ると、もっとマイヒストリーを濃い内容で書きたいと思うし。授業も真面目に取り組める。
- 社会のマイヒストリーでは質問を書くと、くわしく返してくれるので、細かいことや、深い内容が知れて面白い。

職員の声

生徒の声

※いずれも12月のアンケート結果

- 共通理解があると授業づくりに安心感がある。
- 小学校との学習のつながりを捉えられる。
- ▲高校との関わりはこれから充実させていきたい。
- これまでの働きかけの中にも「見方・考え方」を働かせるためのものがあつたことを認識し、その視点で意識して生徒に関わるようになった。
- 今後は「単元ごとの見方・考え方」をつくりたい。
- ▲国語は「見方・考え方」の一覧をつくるのが難しい。

資料1 「目指す生徒の姿」をポスターとして校内に掲示

地域と共に「よく生きよ」

令和元年度新設「生徒会執行部」による大曲駅前清掃活動
この清掃活動は、地域の清掃活動として、清掃員と市民が共に活動することによって、地域を美しく保つことに貢献し、地域貢献の一環として行っている。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、清掃活動を通じて地域貢献を行うことで、目指す生徒の姿を身に付け、地域と共に「よく生きよ」を実現することを目指す。

地域と共に「よく生きよ」

大曲雪まき隊に登録して地域高齢者宅除雪作業
大曲雪まき隊は、地域の高齢者宅の除雪作業を行うボランティア団体である。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、雪まき活動を通じて地域貢献を行うことで、目指す生徒の姿を身に付け、地域と共に「よく生きよ」を実現することを目指す。

社会で生きる知識・技能

3年生修学旅行での「大使館訪問による大曲の花火PR」
この修学旅行では、大曲の花火の魅力を伝えるために、大使館を訪れ、花火の魅力を伝える活動を行った。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、修学旅行を通じて地域貢献を行うことで、目指す生徒の姿を身に付け、社会で生きる知識・技能を身につけることを目指す。

社会で生きる知識・技能

職場体験学習での「老人福祉施設訪問」
この職場体験学習では、老人福祉施設を訪れ、高齢者の生活や福祉について学ぶ機会を得た。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、職場体験学習を通じて社会で生きる知識・技能を身につけることを目指す。

課題解決での協働・創造

技術科授業風景
この授業では、生徒たちが協働して課題を解決し、創造的な成果を生み出した。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、技術科授業を通じて協働・創造の力を身につけることを目指す。

課題解決での協働・創造

国語科授業風景
この授業では、生徒たちが協働して課題を解決し、創造的な成果を生み出した。今年度は、「目指す生徒の姿」をテーマとして、国語科授業を通じて協働・創造の力を身につけることを目指す。

PADカード(国語) 2019.12.11

Passive

- 板書を写している。
- 先生の話を聞いて記憶している。
- 友達の説明や意見を聞いている。
- 質問や疑問がない。
- 与えられた課題を解くことで終わっている。
- 何が分かって何ができるようになったか、まとめたり説明したりするのが難しい。

Active

- 友達の「生き方指南書」と自分の生き方に対する考えから、どのような考えが生まれるかという学習課題の解決に向けて見通しをもって学習に取り組んでいる。
- 特に「主な学習活動2」で、他の考えを自分の意見と比較・分析して聞いている。
- 特に「主な学習活動3」で、質問や感想発表などの意見交流が積極的に進められている。
- 特に「主な学習活動4」で、学習を通じて生じた新たな考えや考えたことを、自分なりにまとめている。
- 特に「主な学習活動3・4」で、まとめた自分の考えが「生き方指南書」をよりよいものにしていくと感じて、本時の学習の達成感となっている。

Deep

- 特に「主な学習活動2」で、学習課題の解決につながるような質問や感想が持っている。
- 特に「主な学習活動3」で、自分の「生き方指南書」が友達の「生き方指南書」と結びついた新たな考えが持っている。
- 特に「主な学習活動3」で、自分の考えの変化を、根拠をもって示している。
- 特に「主な学習活動4」で、他の考えを比較・分析したものの中から、自分にはなかった新たな考えを見つけている。または、自分の「生き方指南書」と結びつけたよりよい生き方となるであろう内容を見つけている。
- 特に「主な学習活動4」で、兼好法師のものを振り返り、自分の変容をうらやましている。
- 特に「主な学習活動4」で、兼好法師のものの見方や考え方を踏まえたよりよい生き方を見つけている。
- 授業後も「徒然草」の章句がよりよい生き方のヒントとして生きていると感じている。
- もっといろいろな章句深く読みたい。
- 古典は現代に通じるものがあるので、他の古典も読みたい。など(授業内での意見・評価・指導は難しいので、教科担任が授業後に対応する)

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善充実事業 3年間の取組の成果と今後の方向性
大仙市立大曲中学校

資料2 マイヒストリーの実際

数学 平行と合同

単元の学習をはじめると同時に 2年生の内容を理解し、得意に学ぶ関わりを大切にしたい。

今日の授業でできたことに○をつけよう

日常生活や社会の現象を数学的に(数や形に注目して)とらえることができるようになった。

「こうだからこうすれば、こうなるのではないのか」という考えをもつことができた。また、新しい考えをもつことができた。

「考えを伝える」「考えを聞く」を通して、自分の考えを広げたり、集団としての考えを深めたりすることができた。

日付	学習内容	振り返り	今日の授業でできたことに○をつけよう	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/23	平行線と角①	対頂角は等しいことが証明できた。また、同位角も等しいことが証明できた。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/24	平行線と角②	平行線の性質を利用して、角の大きさを求めた。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/25	平行線と角③	平行線の性質を利用して、角の大きさを求めた。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/26	合同三角形	合同三角形の判定方法を利用して、三角形の合同を証明した。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/27	合同三角形	合同三角形の判定方法を利用して、三角形の合同を証明した。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/28	合同三角形	合同三角形の判定方法を利用して、三角形の合同を証明した。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/29	合同三角形	合同三角形の判定方法を利用して、三角形の合同を証明した。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ
10/30	合同三角形	合同三角形の判定方法を利用して、三角形の合同を証明した。	○	発展的な考え	伝聞でレベルアップ

資料3 PADカードを用いた授業検証の有効性(研究部通信より抜粋)

研究授業参観カード(12/11国語)

「授業者の想定と実際の生徒の姿にギャップがある点に焦点を絞って検証すること」そしてその検証に「教科の枠を越えて参加できること(今回はその検証に菊地、小野寺、中山が参加)」がPADカードを用いた授業研究会の神髄です。

本時のメインの活動である授業展開において、授業者は生徒の状態を「A/D」「D」と想定していましたが、その状態に達していた生徒は上位の生徒のみでした。

ここに検証すべきことが生じます。

「本時の授業展開は上位生徒にとってのみ有効なものだったのではないか」「本時の授業でやりたかったことが、中位・下位生徒には伝わっていなかったのではないか」です。

<以下は展開のダイジェスト>

参観者「中・下位の生徒は活動の見通しがもてていなかったのではないか。その点に関する検討事項等はあったか。」

津谷「本時は『本時の流れ』を掲示しなかった。しかし、掲示した他のクラスでも、深い学びに達したのは上位生徒がほとんどだった。(この比較から『本時の流れ』の掲示は有効性低)ほかにどのような改善策があるか、ぜひ教えてほしい。」

(中略)

参観者「(ここまでの流れから)『模範生徒の具体例提示を早い段階で全体化』『教師の発問の精選』が有効な改善策として挙げられるだろう。」